

行政視察報告

総合病院建替特別委員会

総合病院建替特別委員会では、青梅市立総合病院の建てかえが現地建てかえという非常に困難な工事であること、新病棟が完成し、今後狭隘な状態での解体工事が行われること、さらに建設業の働き方改革等によってグランドオープンが当初の予定よりも大幅に延びていることなどから、改めて現地建てかえの困難さや工期短縮のための取組などについて調査・研究し、今後の当委員会での議論に生かしていくため、令和6年12月2日にグランドオープンした山形県米沢市の米沢市立病院を視察することとした。

視察地 米沢市立病院

視察期日 令和8年5月11日（月）～12日（火）

視察事項 米沢市立病院の建てかえについて

参加者 （委員長）野島 資雄

（副委員長）山田 敏夫

（委員）みねざき拓実、山崎 善信、山崎 哲男

迫田 晃樹、鴨居たかやす、山内公美子

随 行 内田主幹

【米沢市立病院】

1 公立病院と民間病院の医療連携と新病院建設の意義

- (1) 少子高齢化や人口減少が進み、さらに地方における医師不足・高齢化が問題となっており、米沢市でも救急医療の維持が非常に難しい状況におかれている。将来を見据えた地域医療の確立という観点から、現在の市立病院敷地に新病院を建設すると同時期に、民間病院も同じ敷地に移転して新病院を建設することとした。
- (2) 「米沢市医療連携あり方に関する方針」に基づき、新病院が24時間365日の救急医療を含めた急性期医療を担い、民営の三友堂病院が回復期医療を担いながら、医療の機能分化及び医療連携の強化を目指していく。
- (3) 米沢市立病院（公立病院）と三友堂病院（民間病院）の両方で地域医療連携推進法人を設立し、高額医療機器の共同利用、病床の融通及び医療従事者の交流などさまざまな連携を推進しつつ、両病院が協力し合いながら、良質かつ効率的な

医療を提供し、市民の命を守る最後の砦となる新病院の整備を行うこととした。

2 新病院の現地建てかえ工事の経過

- (1) 新病院の建設候補地は、現地建てかえありきではなく、当初民有地が2箇所と現在地で検討し、その時点では現在地の優位性は高くなかった。その後、あり方検討委員会を経て改めて候補地を検討した際に、民有地では買収等があり完成までの期間が長期となることから、市有地から候補地を選定した。最終的に都市公園と現在地に絞った上で、精神科病棟の廃止により、敷地の自由度が格段に高くなったことも影響し、現在地に建設（現地建てかえ）することになった。
- (2) 本事業は、E C I方式（建設プロジェクトの設計段階から施工予定者を関与させ、技術協力を行う発注方式、施工ノウハウを早期に設計へ反映させることで、コスト縮減や工期短縮、施工段階でのリスク低減を図る）を採用し、施工者が設計段階での技術協力業者（設計者）として関係各所への打ち合わせにも参加することが多々あり、段階的な切替工事が必要となる現地建てかえであったため、詳細な仮設検討など早期に詳細を詰めることができ、工期短縮・工期内の完成に繋がった。また、事業の当初から最後までコンサルタント業者と委託契約を結び、発注者のパートナーとして工程管理やコスト管理の調整を依頼したことで大きな効果があった。
- (3) 工事期間中、物価上昇による工事期間中2度の計画変更を行った。追加要望などが増えたことによる増額分を吸収するために、V E提案（品質は落とさず費用を下げる提案）やC D提案（単純な費用削減提案）を受けて計画の変更を行った。建設業界の働き方改革の影響としては、週休日を2日設ける必要があったが、元受け、下請け共に増員し、交代勤務のような形で閉所は週1日を基本とした。
- (4) 工事期間が短かったことが最も困難なことであった。工種で苦労したのは土工事で地下水が豊富な土地であったことから、地下部分の施工に対して止水対策と近隣対応に苦慮した。

3 新病院の概要

- (1) 建築場所：山形県米沢市相生町6番36号（現市立病院敷地内）
- (2) 敷地面積：約34,900 m²
- (3) 延床面積：約42,900 m²
(米沢市立病院約23,300 m²、三友堂病院約14,800 m²、他)
- (4) 規 模：地上8階、地下1階

- (5) 構 造：鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造（免震構造）、鉄筋コンクリート造
- (6) 病 床 数：462 床（米沢市立病院 263 床、三友堂病院 199 床）
- (7) 設 計：内藤建築事務所
- (8) 事 業 費：155 億 8,000 万円

4 旧病院の解体工事、駐車場整備、外構工事等について

- (1) 旧病院の解体工事は段階的に行うこととし、工事エリアと重なるカルテ倉庫（旧看護師寮）と外来診療棟低層部の機能を廃止された精神科病棟を改修し、機能移転した後に第 1 期の解体工事として開始した。
- (2) 各々の予定工期は、当初から厳しかったことから分離発注せず一本発注にするなど工期短縮・工期順守の工夫・対応を心がけた。一本発注により先行解体工事中に本体工事の準備期間（材料発注や仮設の先行設置）を確保することができ、速やかな本体工事着手に繋がった。
- (3) 新病院建設事業のうち、一括発注したものは、先行解体工事約 3,700 万円、新病院建設工事約 99 億 7,000 万円、旧病院解体工事約 9 億 1,000 万円、外構工事約 3 億 8,000 万円、合計約 112 億 9,700 万円であり、分離発注分の主なものは、北病棟改修工事約 4,600 万円、旧看護師寮上屋解体工事約 5,600 万円、外来低層部上屋解体工事約 8,800 万円、その他である。

5 旧病院の解体工事、駐車場整備、外構工事等を含む建てかえ工事に要した期間

- (1) 北病棟改修工事：令和 2 年 6 月 1 日～9 月 30 日…4 か月
- (2) 引っ越し等作業：令和 2 年 7 月 16 日～12 月 31 日…約 6 か月
- (3) 旧看護師寮上屋解体：令和 2 年 8 月 7 日～12 月 23 日…約 4 か月
- (4) 外来低層部上屋解体：令和 2 年 12 月 21 日～令和 3 年 6 月 30 日…6 か月
- (5) 先行解体工事：令和 3 年 6 月 21 日からの約 1 か月半
※仮囲い、患者用仮設通路設置
- (6) 新病院建設工事：令和 3 年 9 月～令和 5 年 7 月…23 か月
※一部の工事は解体工事後着手
- (7) ナースコール、院内 LAN、セキュリティーシステム等工事：令和 5 年 8 月～10 月…3 か月
- (8) 第 1 期外構工事：令和 5 年 4 月～10 月…7 か月
※3 段階で南側駐車場・外構整備
- (9) 引っ越し等作業：令和 5 年 4 月 25 日～11 月 30 日…7 か月

※引っ越し作業は8月～10月

(10) 旧病院解体工事：令和5年11月～令和6年9月…11か月

※アスベスト除去工事含む

(11) 第2期外構工事：令和6年9月～11月29日…3か月

6 新病院の特色

事業として、公立の市立病院と民営の三友堂病院をそれぞれ「独自性を保ちつつ」同一敷地内に合築させたことが特色である。米沢市医療連携あり方に関する方針に則り、両病院の再編後、三友堂病院が回復期を担っていくことを前提として、市立病院は救急医療を含めた急性期医療を担っていくために医療連携に関する両病院の協議を進めてきた。官民2病院の機能再編＋隣接合築は日本初の官民連携事業で前例がなく調整に苦慮した。



米沢市立病院から説明を受ける委員

7 視察当日の主な質問・答弁

- (1) 問 空間やデザインなど利用者の使いやすさを意識して建てかえは行われたか。
答 ユニバーサルデザインを使用することは当然、見やすさや伝わりやすさを意識して配置や色、デザインなどの工夫を行った。
- (2) 問 旧病院解体工事の際、アスベストの除去費用はいくらであったのか。
答 旧病院解体工事約9億1,000万円のうち、約1億円であった。
- (3) 問 病院の経営から考えて急性期医療を公立病院のみが担うと、民営病院の採算が割に合わなくなることが懸念されるが、どのように考えているのか。
答 民営病院にも公立病院にはない透析や検診といった採算のよいものがある。片方の経営が崩れても成り立たないため、十分にシミュレーションを行い機能分担をしている。

(4) 問 新病院が完成し、病棟の引っ越しは、一斉に行われたものか。あるいは、一部後で引っ越しを行ったのか。

答 患者の方に関しては、一度に全員の移動を行った。医療機器に関しては随時、動かすことが可能なものから移動を行った。

(5) 問 新病院のすぐそばで解体工事を行ったことによって、入院されている患者の方等からの反応はどのようなであったか。

答 「作業の音がうるさい」、「作業員がそばにいて気になる」などの苦情はほとんどなくむしろ、「作業の様子がわかり、毎日風景が変わっていくので楽しい」、「この作業はもっとこうしたほうが良い」などの意見もあった。

(6) 問 解体工事には、降雪の影響などがあると考えるが、短い工期の中で予定どおり完了した理由を伺う。

答 冬は建物内部を解体して、雪解けを待って外側を解体するなどの工夫を行った。外側を解体する場合でもどこから解体すれば工期を短縮できるかなど議論し、解体のルートを考えて実際の解体工事を行った。

【視察を終えて】

視察に御協力いただいた米沢市議会及び米沢市立病院の皆様におかれましては、お忙しい中、親切かつ丁寧な説明と院内の案内をいただき、心より感謝申し上げます。

青梅市立総合病院の建てかえは、新病院の本館が令和5年11月1日から稼働し、西館の改修工事までが令和7年6月には完了している。今後は、狭隘な土地でさまざまな制限のある中、現東棟・西棟の解体工事から渡り廊下棟2期工事・外構最終整備をもって令和12年3月のグランドオープンを目指している。

今回の視察先である米沢市立病院は、同様に現地建てかえを狭隘な場所で実施したが、品質は落とさず費用を下げる取組や単純な費用削減の取組が行われていた。また、建設業界の働き方改革の影響に対しては、週休日を2日設ける必要があったが、元受け、下請け共に増員し、交代勤務のような形で閉所は週1日を基本とするなど、費用削減や工期短縮のための工夫を知ることができた。その他にも視察当日の質問により、地域の特性として、冬期は積雪があることから、冬は建物内部を解体して、雪解けを待って外側を解体するなどの工夫を行ったこと、外側を解体する場合でもどこから解体すれば工期を短縮できるかなど議論し、解体のルートを考えて実際の解体工事を行ったことなどが確認できた。

今回の視察によって明らかとなったこれらの取組が、今後の当委員会における議論の重要な論点の一つとして、非常に参考となっていくものと考えている。

(総合病院建替特別委員長 野島 資雄)



米沢市立病院を視察した総合病院建替特別委員